



開物成務

令和8年1月16(金)発行

校長 大越 泰子

2026年

新しい年のスタートです

いよいよ1年間の総まとめの3学期が始まりました。冬季休業中も、感染症の大流行や、事故もなく、始業式では元気な子どもたちの姿を見ることができて、とてもうれしかったです。

皆様はどのような年末・年始をお過ごしでしたか?何かと気ぜわしい中にも、「節目」を感じる時間でもありました。久しぶりに親戚が集まり、互いの成長を喜んだり、いつまでも健康でと願ったり、お年玉をもらったり、配ったり…。楽しい時間を過ごした方も多かったことでしょう。

日常とはちょっと違う日々の中で、あいさつや言葉遣いなどの礼儀や、日本の文化に触れる機会にもなりましたことでしょう。除夜の鐘を聞きながら、静かに開けた新年に「今年も穏やかで、幸せな1年でありますように。」と手を合わせ願いました。



今年もよろしくお祈いします。

新年の願いをこめて

書き初め

賀正

新学期が始まって、早速全学年で書き初めを行いました。書き初めは、新しい年を迎え、心静かに願いをこめて文字を書く、日本の伝統的な行事の一つです。教室に様子を見に行くと、「春の海」の音楽が流れる中、姿勢よく半紙に向かい、筆が止まると、ほっと息をついていました。集中して取り組んでいる証拠です。満足いくものができた子たちが達成感あふれる笑顔で、できた作品を見せてくれました。

一月二十三日(金)まで書き初め展示会を行っています。廊下に掲示された児童の作品を見に来てください。



音を楽しもう!しいのみ音楽鑑賞会 打楽器アンサンブルグループ「打ax」

1月9日(金)給食初日の午後に、音楽鑑賞会を実施しました。打楽器アンサンブルと聞いて、どんな音楽会になるのだらうと思いましたが、1曲目の「ウィリアムテル序曲」の迫力で一気に引き込まれました。「たたいて音を出すものは全て打楽器」という言葉のとおり、音楽室にもある楽器から、フライパンやおもちゃもつかって、楽しい音楽を披露していただきました。1台の大きなマリンバを5人で移動しながら演奏したり、スネアドラムを一糸乱れぬリズムでたたいたりプロのパフォーマンスに圧倒されました。「体も打楽器!」と全校で3つのリズムを分担し、ボディーパーカッションにも挑戦しました。終了後、早速体をたたいてリズムをとっている子たちがいました。“本物”に触れる経験から感じた感動を、ぜひご家庭でも話題にしてみてくださいね。





6 年校外学習

12 月 17 日(水)に
キャリア教育の一環で
6 年生がキッザニアに

行きました。6 年生は自分で体験したいアクティビティを選んで、職業体験をしました。ピザやアイスを作ったり、乗馬体験をしたり、モデルになってショーに出たりと、様々なものに挑戦しました。

また、水曜日は「English Wednesday」といって、アクティビティーの半数が英語で行われていて自然に英語に親しむことができました。卒業前にまた一つ思い出が増えたことでしょう。

時間走ウィーク

3 学期から、体育の授業で時間走を行っています。それに伴い 1 月 13 日(火)～23 日(金)まで、中休みに 5 分間走に取り組む「時間走ウィーク」を行っています。速さや順位を競うのではなく、練習を重ねて時間内に走れる距離を伸ばしていくことを目標としています。継続することで身についた力が、距離となって表れてきます。この機会に、みんなで一緒に楽しみながら走り、持久力を高めていきましょう。健康観察を忘れずをお願いします。



人権朝会と生活アンケート

11 月末に予定されていた人権朝会ですが、学級閉鎖期間と重なり延期されていました。今年は、自分や相手を大切にしたい関わりをするために必要な「自分の気持ちを整理すること」をテーマとしました。イライラした気持ちをそのままぶつけると、周囲に不快感や怖さを与えます。互いに気持ちよく生活していくために、自分の気持ちに向き合い、丁寧に整理することの大切さについて、今回の朝会だけでなく、日々の生活の中で繰り返し指導しています。自分と同様に、相手のことも大切にすることが人権です。学校という集団生活の中で、折り合いをつけながら、互いに気持ち良く生活していくためのソーシャルスキルを身に付けていきましょう。



給食で学ぶ日本の文化「松風焼」

1 月 9 日(金)3 学期第 1 回の給食に「松風焼」ができました。平安時代の歌人、在原行平を題材にした能から生まれたこの料理は、おせち料理の定番です。

表だけにゴマをふり、裏には何もなかったことから「隠し事のない、正直な生き方ができるように」という願いが込められています。小正月前に少しでもおせち



松風焼

料理の雰囲気を感じてほしいという、給食室からの思いが伝わってきます。給食をとおして和食の文化を伝える工夫がされています。

校長室の窓から

今回は個人的なお話ですが・・・ みなさんは朝ドラをご覧になりますか？ 当然朝の時間は見ることはできません。しかし、最近では見逃し配信が盛んになり、いつでも見たい時に見られる便利な時代になりました。金曜日の夜に一週間分まとめて見るのが週末の密かな楽しみになっています。

前回の「あんぱん」はアンパンマンの生みの親、やなせたかしさんがモデルでした。原作本「やなせたかしの生涯」の作者は、梯久美子さん。5 年生の国語の教科書にもなっています。60 歳をすぎてやっと生まれた大ヒットキャラクター「アンパンマン」。うちの子どもたちも大好きでしたが、そのやさしいお話には、やなせ氏の平和やヒーローについての思いが強く反映されていることを知りました。

10 月からは、明治時代、まだ外国人が珍しい時代に、日本の文化や文学に魅力を感じて日本に帰化したラフカディオ・ハーン(のちの小泉八雲)と妻節子がモデルになったお話、「ばけばけ」です。ちょうど、去年の夏休みに出雲大社や松江城に行ったので、より物語に引き込まれています。「耳なし芳一」や「雪女」「子育て幽霊」などの地方に伝わる怪談が、実は外国人によって価値を再発見されて広まったというのはとても興味深いです。これからドラマがどんな展開になっていくのか楽しみです。